

「ブリ(下)」 北海道と東シナ海往復

大回遊を実証

ブリの詳細な分布・回遊状況を調査するため、ブリの体内に埋め込む機械の形状は、長さ10センチ、直径1.8センチほどの円筒形である。本体部から20センチほどのセンサーケーブルが伸び出ている。

内部には小型コンピューターが組み込まれ、128秒ごとに水温、体温、水深、照度を計測。これらと世界標準時間から日ごとの緯度と経度を計算して、電池の寿命である約7年間にわたってブリの動きを記録し続ける仕組みになっている。

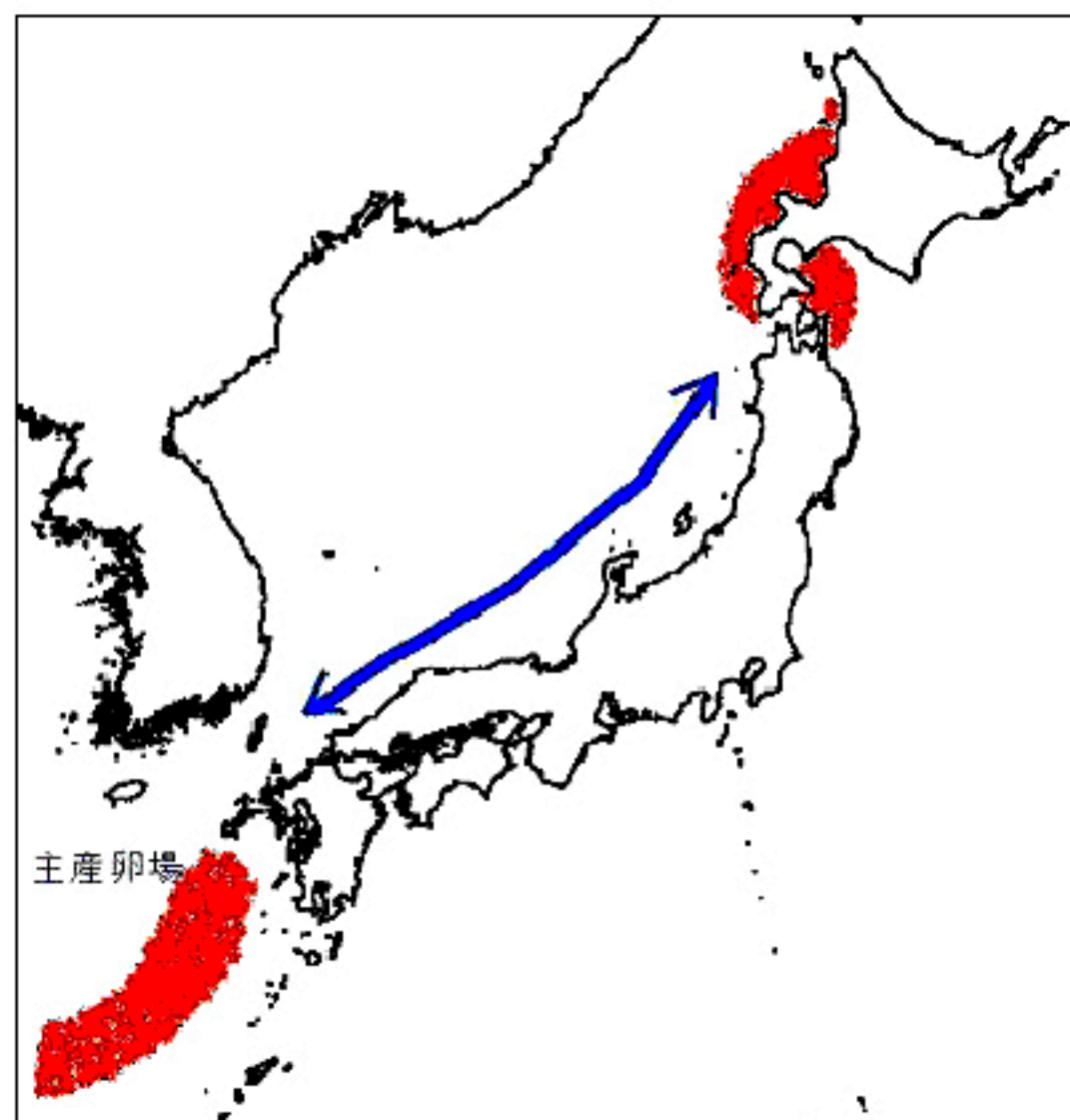
機械の本体部をブリの体内に埋め込んで放流した後、そのブリが再び捕獲された時点で機械を回収する。機械に記録されているデータを見ることで、放流から再捕までの間、ブリがどこを泳いでいたのかが把握できるということになる。

1999年に氷見沖で初めて標識放流を実施して以来、日本海沿岸各地の漁業者の協力を得て機械を内蔵したブリの放流を行っている。最長で放流から再捕まで約2年間に及ぶ回遊の記録が得られた事例がある。

これまでの結果から、満3歳以上の大型ブリは8～11月にかけて津軽海峡及び太平洋側を含む北海道の周辺に滞留し、12～1月には、日本海を九州付近まで急速に南下、春に東シナ海で産卵した後に、再び北海道周辺まで北上回遊することが明らかになっている。

つまり、体重約10キロ以上のブリは、北海道と東シナ海を往復する大回遊を行うことが実証されたのである。従って、11～12月に富山で獲れる大型ブリは、北海道周辺から九州を目指して南下回遊中のものであり、スルメイカやサンマなど餌が豊富な北の海で、長旅と産卵に備えてたっぷり脂肪を貯えている。ブリを食べるわれわれにとって、最高の状態で富山湾へ来遊するものであることが想像できる。

副産物的ではあるが、富山のブリが旨い理由も、この調査の成果によって説明されているのである。(井野慎吾)



夏～秋の回遊海域